



アーティスト達の門松

●かえで/第69号 ●発行日/2026年1月30日 ●発行責任者/内野 浩二 ●編集/石原 美奈・木村俊一郎

2026年もピア宮敷をお引き立ての程どうぞ宜しくお願いいたします



新年祝賀会 at ホテル一宮シーサイドオーツカ

令和八年

迎春

馬



社会福祉法人士穂会
会長 多田美穂子

新年に当たり、いすみ市小路市長様をはじめとした福祉行政の方々、家族会、後援会の方々、関係各位の皆様方には格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。「丙」は地上を遍く照らす太陽のあたたかな光を象徴し、また「午」は、前進や行動力をあらわしています。

ぬくもりの光を絶やさず一人ひとりを照らし、共に一歩前へ進む一年となりますよう、職員一同精進してまいります。皆さまの引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



離島がたくさんある東京の次が千葉で、しかも244島もあるなんてびっくりしました。仁右衛門島は有人島ですが、243が無人島。ちなみに我が奈良県には1島。理事長のふるさと長崎県には1479島(全国1位)あるのだそうです。カレールウは地域の食文化の違いと家庭調理頻度が原因とみられるそうです。どんちゃんではカレールウとんが不動の1番人気ですがね。こうして並べてみると、千葉県は「地味だと思っていたら実はすごい県」ランキング上位なのでは：と密事に調べてみましたよっかね。

- ・実は日本で6番目に神社の数が多く、京都・奈良よりも多い(1位は新潟)
- ・島が244島ある(関東では東京に次いで2位)
- ・カレールウの消費量が日本で4番目に少ない(1番少ないのは東京)
- ・銚子電鉄は煎餅の売り上げで倒産危機を免れた(売り上げの8割がお菓子)
- ・本州で一番早く初日の出を拝めるのが千葉県(犬吠埼)
- ・今のところランキング外だが、良質のとらふぐの漁獲高が急上昇中(中でもいすみ市はぐいぐい来ている)

ピアの杜
筆者は明石家さんと堂本剛を生んだ事が最大の誇りである奈良県出身なのですが、ピア宮敷に入社するまでは千葉県とは縁もゆかりもなく、本州で唯一熊が出ないとか、「舞浜」はデイズニーを誘致する時に「マイアミ」をもじって作られた地名だとか、キムタクと長嶋茂雄とマツコデラックスを生んだ県と言う事からの知識しかありませんでした。それと、屋内で気を付けなさいといけない代表格である「ハガチ」が何なのかさっぱりわからなかったレベルです。それだけに、「温泉地の数が実は日本で10番目に多い」(情報ソースは会議での千葉県知事の発言を聞いた内野理事長)と聞くと、実はポテンシャルを秘めた地域なのでは？と興味が湧きました。ということで今回は他にも知って(筆者が)驚いた千葉県の豆知識を羅列したいと思います。



60年に一度の丙午の年は、変化を恐れず挑戦する力に満ちた年とも言われています。今年はその年にちなみ、各チームが「今年やってみたいこと」「挑戦したいこと」を、思い思いに歌に詠みました。活動への思いや仲間への気持ち、未来への挑戦心がにじむ一首一首を、どうぞゆっくりご覧ください。

戸外班作

跳馬の力強さを 手に入れて
真紅の実への 戦い挑む

辛い特別な唐辛子の栽培者を探しているとの情報入手。戸外班で栽培に挑戦してみることにしました。何年かぶりの夏野菜栽培、外部からの委託なので一からのチャレンジ試行錯誤の連続となりそうですが力強く頑張っていきたいと思えます。また夏野菜だけでなく、春夏秋冬四季でのイベントは盛りだくさんです。春はジャガイモ、秋はサツマイモ、冬は切干大根。秋のサツマイモは小学生との交流会。利用者、職員みんなが楽しみにしているイベントでもあります。これからも「挑戦」を恐れずこの一年ウマくいくよう活動していきます。



生活班作

それぞれの 歩幅を見つめ 踏み出せば
その一歩こそ 挑戦となる

生活班では「挑戦」を無理に高い目標へ向かうことではなく、今の自分の身体状態や体力を正しく見定め、その上で一歩を踏み出すこと。高齢化が進み、歩行能力や体力に個人差が大きくなる中で、誰かと比べるのではなく、それぞれの歩幅を尊重することが重要だと考えております。他者にとつては小さな一歩であっても、ご本人にとつては大きな一歩であり、それが挑戦であり、継続的な歩みに繋がるものと思いいの句を詠みました。



障害者就業・生活支援センター作

宮敷の 地域連携 より深く
手と手取りあい 語り場づくり

私たち（ナカポツ、計画相談、法人企画室）は小さな地域の中で社会資源の一つとして、各事業所や自立支援協議会に参画しています。資源が少ない地域で様々な支援のニーズが増え、地域事業所と手を取り合うことやお互いつながることが大切と考えています。今年により発展的に語り合う場を作り顔の見える関係づくり、地域づくりにチャレンジしていきたいです。



福祉作業所作

つまずきを 数えるよりも できること
ともに選んで つくる一年

つまずきを数えるより、できることを見つけて前へ進む姿勢を大切にしたい、という気持ちを歌った短歌です。「ともに選んで」には仲間と一緒に考え支え合う温かさを、「つくる一年」には自分たちの手で未来を形づけたいという思いが込められています。難しいことも仲間となら挑戦できる、そんな前向きな姿勢を歌に込めました。



第1工房作

活躍を ハツシユタグにも たくしつ
灯る笑顔と 地域のぬくもり

第1工房で活躍するご利用者の皆さんの姿や、地域の方々との交流のひとつとまひとこまを大切にしながら、ご利用者の皆さんの活躍と外房地域ならではの魅力を「ハツシユタグ」を添えてSNSで発信し続けていくことに挑戦します。開所日には毎日更新することを目標に、一日一日を充実した活動内容にし、日々の歩みを記録として残していきます。単なる情報の共有ではなく、人の輝きと地域の魅力、障害福祉の楽しさを伝えていければと思います。地域に感謝し、季節の移ろいとともに、発信していきますので、ぜひ「いいね」をください!



グループホーム作

駆けあがる 午(うま)の勢い 追い風に
新たな扉 共に開こう

本年はいよいよ新しいグループホームが椎木に誕生します。新天地での生活をはじめたことを考えると、今までの場所から環境が変わる事への不安や寂しさもあるかもしれません。しかし、新たな仲間が増え、これまでに経験した事のない色々な出来事が待っていることでしょう。それすなわち不安や寂しさ以上に未来は希望に満ちていると言う事です。職員一同利用者様を今後もフルパワーで支えてまいります。次の未来と一緒に進んでいきましょう!



フードバンク活動報告

夷隅地区では「中核地域生活支援センター夷隅ひなた」が窓口になってフードバンク活動が行われています。ピア宮敷も年2回、職員はもとより家族会へも協力をお願いし、家庭で余っていた食品を持ち寄って夷隅ひなたさんに届けます。寄せられた食品は、生活に困難を抱える方々の支援となるだけでなく、地域でのフードロス削減にもつながる意義ある取り組みです。夷隅ひなたさんからは「物入りな年末年始に困っている方々へ責任もって届けさせていただきます。ご協力に感謝します。」との言葉をいただきました。なお、夷隅ひなたさんでは年間を通して食品を受け付けています。皆さまの継続的なご協力をお願いいたします。(記事：石原)



一泊旅行に行ってきました！(12/21～22)



大洗方面へ1泊旅行に出かけました。出発時こそ雨模様でしたが、バスが進むにつれて天候は回復し、心配していた気温も穏やかで、絶好の旅行日和となりました。2年ぶりの大型バスでの旅行でしたが、利用者の皆様は落ち着いており、むしろ職員の方が高揚していたほどです。初日の昼食は阿見町の「ばんどう太郎」で、蕎麦・天ぷら・刺身が並ぶ豪華な御膳を堪能しました。その後は大洗水族館を見学し、水族館好きの鈴木係長による案内で多彩な魚やショーを楽しみました。宿泊先の潮来では、川沿いに紫色の行灯が灯り、幻想的な雰囲気に包まれました。夜の宴会ではカラオケやミニゲームで盛り上がり、水郷ならではの鯉料理など普段味わえない食事もありました。2日目は成田ゆめ牧場を訪れ、ふれあいコーナーなどを楽しんだ後、寒空の下で定番のソフトクリームを味わいました。昼食はアートホテル成田のビュッフェ。緊張気味の筆者とは対照的に、利用者の皆様はマナー良く堂々と食事を楽しまれていました。帰りの車内では「楽しかった。また来年も」との声が多く聞かれ、実りある2日間となりました。(記事：瀧川)

新グループホーム建設着工

ピア宮敷における地域移行・地域生活支援の事業は平成18年1月から開始した【自活訓練事業】に遡ります。入所施設から約5キロ離れた椎木商店街に民家をお借りし、5名の男性利用者が共同生活を始めました。そこが初代の【椎木の家】です。さらに、押日という地域にも民家【押日の家】をお借りし2軒の家で自活訓練事業を行いました。その後、自活訓練事業は平成23年度を持って終了となることを受け、法人で新ホーム(くわた壺番館・式番館)を建設し運営してきました。さて、その初代の【椎木の家】です。自活訓練棟⇒ケアホーム⇒グループホームと呼称は変わりましたが、古民家と言えば聞こえは良いですが、はっきり言ってボロ家。しかし、世話人さんの力が大です。塵一つなく、廊下はピカピカで常に清潔が保たれてきました。しかし、老朽化はいかんともし難く、建て替えを計画してきました。平成30年ごろ、ご縁を頂き、椎木の家近隣に用地を取得。しかし、折からのウッドショックによる建設費の急騰と資材調達困難さ、そして、それに続くコロナウィルスの席卷により、新事業どころではなくなりました。その後の停滞は皆様もご承知の通りです。しかし、ホームの老朽化は進むばかりでヘビー級のサビ管が廊下を歩くと、抜けそうな箇所がどんどん増え、トイレの便器は傾き、雨漏りは酷くなり…。コロナ期を過ぎ新ホームの設計を再スタート。建設費の高騰は想像を絶するものでしたが、昨年11月末に建設着工しました。5月の完成に向け連日槌音を響かせています。街中にあってもゆったりと穏やかに生活できるよう配慮したつもりです。次号の広報誌「かえで70号」では完成した姿をお披露目できるかと思っております。(記事：内野)



第8回 アーティスト達の作品展示会 IN 家具の大丸 来場御礼

12/13～26の展示会には5つの事業所【いすみ学園、夷隅郡市福祉作業所、ピア宮敷、ピア宮敷第1工房、みらい工房ぱれっと】のアーティスト達が参加しました。ピア宮敷はクリスマス为主题にした大きなサンタアートや紙コップのツリーを展示し会場をあたたく彩りました。他にも、絵画、貼り絵、陶芸、染め物などのアート作品がお客様をお迎えしました。また、第1工房のはちみつやジャム、いすみ学園の焼き菓子などの食品も、多くの方に手に取っていただきました。今回は、アート作品も食品もより見やすく、選びやすくなるよう、陳列や配置もみんなで工夫を重ねました。そして実は、私が設営の準備中に「これ欲しいな…」と密かに目をつけていたアート作品があったのですが、開場してすぐに売れてしまい、ちょっぴり残念な気持ちに…。でも、それだけ多くの方に楽しんでいただけた証でもあり、うれしい出来事でもありました。これからもそれぞれの事業所の取り組みをより素敵に届けられるよう、みんなで知恵を絞っていきます。次回もどうぞお楽しみに。(記事：高地)



内部研修を開催

オムツ研修(11/28)

「おむつQOL」という言葉があります。おむつを使用する人の生活の質(Quality of Life)を、適切な製品選び、正しい使い方、丁寧なスキンケア、そして介護者への配慮によって高めることを指します。肌トラブル(浸軟、褥瘡)の予防、漏れやムレによる不快感の軽減、精神的負担の軽減、そして自尊心の維持が重要で、これらを通じて快適な排泄ケアを実現し、活動意欲や自分らしさを支えることを目指します。オムツメーカーの担当者を招聘し、実践研修を行いました。自己流で行わず正しく実践することで、支援者・利用者双方がより快適に過ごせると感じました。



BCP研修(12/26)



昨年7月のカムチャツカ半島地震に起因するBCP発動や12月の青森県東方沖地震の発生など、災害対応は待たなしです。今回のBCP研修では、基本的な概要に加え、国土院の「重ねるハザードマップ」を用いて、各職員の自宅周辺や通勤経路に潜むリスクを確認しました。また、千葉県災害VRを活用し、津波や豪雨の状況を360度で疑似体験することで、災害発生時の危険性をよりリアルに理解することができました。実践的で意識向上につながる研修となったと思います。(記事：石原)

切干大根

ピア宮敷名物「戶外班の切干大根」は、利用者の皆さんと職員が15年以上力を合わせて作り続けてきた看板商品です。畑づくりから収穫、洗浄、皮むき、乾燥、袋詰めまで沢山の工程を丁寧に行い、今年も良い商品が出来上がりました。寒さの中でも黙々と作業に取り組む利用者の皆さんの姿は頼もしく、「そろそろ大根の季節だね」と言い合える関係は大切な財産です。これからも皆で力を合わせ、良い品を届け続けていきたいと思っております。今年の味を是非ご賞味ください。(記事：高井)



ちば農福連携マルシェ in ペリエ千葉 (12/5・6) 御礼!



千葉県内で農福連携に取り組む福祉施設で作られた生鮮野菜やオリジナル商品がブースに並びます。会場は、改札横のコンコースで人通りが多く、販売員の声にも自然と熱が入り、各ブースからは活気ある掛け声が響いていました。私達は、限られたスペースのディスプレイを目を引くものにしたし、ハチミツの試食を提供するなど販売手法にもひと工夫し、気づけば用意した商品がほとんど完売するほどの盛況ぶりです。充実した販売会となりました。お買い上げいただいたお客様ありがとうございました。(記事：野坂)

菜花プロジェクト Season 7

冬真ただ中であって、高秀牧場の菜花畑には緑の絨毯が広がっています。「菜花プロジェクト」は絶好調!“雨待ち空振り”の修行シーズンを乗り越えた甲斐あって、現在はまさに黄金期!畑はみずみずしい菜花でいっぱい。収穫も順調そのものです。工賃向上におおいに貢献できそうです!修行、いや苦行のごとく腰と膝が悲鳴をあげながら植えた苗たちが、今やしっかり働いてくれています。利用者さんたちも張り切っており、菜花ガールズ達も連日笑顔で奮闘中。さらに2月には期待の新星「ピチピチの新菜花ボーイズ」が加入予定とあって、畑も現場も活気づいています。春までのラストパート、菜花のようにたくましく、そしてちょっぴりユーモラスに駆け抜けたと思います。今年の菜花畑は、まさに「努力と笑顔の実り畑」!収穫の喜びとともに、また新しい季節への意欲が芽吹いています。(記事：平林)



はじめの一步農場 Vol.4

前号では、はじめの一步農場のハード面が整いつつあることをお伝えしました。今号では、働きづらさのある人・ひきこもり状態だった人の実際の受け入れ(就労訓練)が始まった現在の様子をお伝えします。これまでに当法人のナカボツセンターの登録者5名の方が訓練を行いました。まずは、センター職員同席で面談を行います。そして、畑作業や簡単な事務作業、脳トレなどにご自分のペースで取り組んでもらいます。作業を通して「できる・できない」をチェックするのではなく、自分と向き合ってもらうことを大切にしています。初回は緊張している人も、回を重ねるごとに、土や植物に触れることで表情が和らいだり、同じ作業を繰り返すことで集中力が高まったり、自分から動こうとする姿が見られるなど、少しずつ変化が現れています。一連の訓練を経て就労継続支援事業に進んだり、就労に向かって「はじめの一步」を歩みだしています。一方で、支援する私たちにとっても気づきがありました。相手をコントロールしたり、指示したりするのではなく、「一緒に考え、一緒にやってみて確認する」こと、そして何より「ご本人が気づく」ことこそが大切であり、そのためにさまざまな仕掛けを行うことが、私たちの仕事なのだと感じています。はじめの一步農場は、「働くことを試す場所」であると同時に、人が育ち、関係性が育つ場所です。次号、どのような報告が出来るか楽しみです。どうぞはじめの一步農場にご期待ください。(記事：内野美佐)



編集後記

2026年は60年に一度の丙午(ひのえうま)。活力に満ち、新たな動きが生まれやすい転換の年とされています。本誌2面では毎年恒例の歌会始に寄せて、各班・事業所の今年の抱負をご紹介いたしました。ご高覧いただければ幸いです。皆様にとりまして、この一年が実り多く、何事もうまく進む年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

讃岐うどんの
おいしいお店

就労体験館「どんちゃん」

17年前の開店当初は水道が凍結して水が出ない日もありましたが、最近はありませんね。これも地球温暖化なのかなと感じることもあります。さて、この冬もお楽しみをご用意いたしました。季節限定メニューとして大丸木工所様の無農薬レモンを使った「大丸レモンうどん」、甘みが強く美味しい「紅はるかの天ぷら」、苦味が少なく旨みが際立つ「菜花の天ぷら」も登場。温暖化とは言え、寒い季節はどんちゃんの温かいうどんではっとひと息つきませんか?今年もスタッフ一同、笑顔で皆様のご来店を心よりお待ちしております。



新商品や新企画などのお得な情報を発信しています。
【どんちゃんInstagram】のフォローを是非お願いいたします!(記事：石森)



僕らはみんな生き生き展

日時/2月19日(木)~22日(日)
10:00~20:00
場所/茂原ショッピングプラザ・アスモ(1Fセンターコート)

長生・夷隅地区福祉施設連絡協議会主催の「僕らはみんな生き生き展」が、茂原ショッピングプラザアスモにて開催されます。販売だけではなく、特別支援学校などの展示参加のコーナーもあり、見どころ満載です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。(記事：野坂)



障害者就業・生活支援センターより

企業見学会を開催しました。この見学会は、障害者雇用を検討している企業の皆様に、すでに取り組みを進めている企業を訪問していただき、今後の採用計画をより具体的にイメージしていただくことを目的としています。今回は、大学の研修施設で働く方々の様子をご覧いただき、意見交換を行いました。参加された企業の方からは、「障害者雇用と聞き難しく考えていたが、実際の働く姿を見ることで、自社でも取り組めるかもしれないと思えた」という声が寄せられました。今後も、障害者雇用への理解促進に努めてまいります。(記事：主任就業支援員 鶴岡)



ピア宮敷の公式ホームページでは、各種イベントや支援の様子など、最新情報を随時更新していきます。こちらも是非ご覧ください。

お世話になります



ホームページのご案内

後援会入会のご案内
後援会では、「社会福祉法人土穂会 ピア宮敷」の運営を支援するため、積極的に活動しております。
入会のお問い合わせは、後援会事務局までどうぞ。
0470-87-9631
(ピア宮敷内)

後援会入会のご案内